**1、爲什麽要實踐慈悲行？**

慈悲是佛教的核心思想之一。慈，是指給予衆生利益和安樂。悲，是指拔除衆生的煩惱、困苦，消除不利之事 。

在《優婆塞戒經》中佛陀開示“智者深見一切衆生沈沒生死苦悩大海、爲欲抜済、是故生悲。”

同樣在《優婆塞戒經》中，也講授了以下爲何要修持慈悲的教義：

“一切煩悩、是我大怨、何以故？因是煩悩、能破自他。以是因縁、我當修集慈悲之心、爲欲利益諸衆生故、爲得無量純善法故。”

同时，也有如下的经文：「一切善法，悲为根本」、「**若有说言：离于慈悲，得善法者，无有是处。」、「**若能修慈，当知是人，能破一切骄慢因，能行施、戒、忍辱、精进、禅定、智慧」，显示出慈悲的重要性及慈悲是六度万行的基础。

另一方面，『優婆塞戒経』中，佛陀对何为禅定也做了鲜为现代人知的明确定义，那就是

戒、慈、悲、喜、舍

禅定即　 远离诸结 　　　　　　　是名禅定

修集善法

（「禅定即戒、慈、悲、喜、舎。遠離諸結、修集善法、是名禅定」出自《優婆塞戒経》禅波羅密品第二十七）。

　更进一步，在《大萨遮尼干子所说经》中，更详细地讲述了慈悲喜舍与四如意分、禅定乃至神通的关系。「四如意分者：一者、欲如意；二 者、精进如意；三者、心如意；四者、思惟如意。如是四法，慈、悲、喜、舍而为根本。是四无量心常亲近，常亲近故，心得调柔。心调柔故，得入初禅、第二禅、第三禅、第四禅。入诸禅故，身得轻软。成就如是身轻心柔，入如意分。善入如意分已，即生神通。」（出自《大薩遮尼乾子所說經》卷第七，如來無過功德品第八之二）

也就是说，佛陀通过《優婆塞戒経》和《大萨遮尼干子所说经》，明确告诉了我们：守护戒律，行持慈悲喜舍本身就是禅定乃至神通的基础，远离烦恼等自身结使，修集善法本身就是禅定乃至神通的基础。

从以上经文可知，为了给与众生利益，为了给自身修集善业，为了成就六度和禅定乃至神通，一个佛教修行者都必须要将慈悲的理念付诸于行动去实践。

## 日文

### １．なぜ慈悲行を実践しようとしますか

慈悲は仏教の核心思想の一つです。慈とは人に利益や安楽を与え、悲と

は衆生から不利益と苦痛を除去することを意味します 。

『優婆塞戒経』では、「智者深く一切衆生の生死苦悩の大海に沈没せるを見て、抜済せんと欲するがため、これゆえに悲を生ず」と仏陀が説かれています。（原文：智者深見一切衆生沈没生生死苦悩大海、為欲抜済、是故生悲。）

同じく『優婆塞戒経』では、「一切煩悩、是我大怨、何以故？因是煩悩、能破自他。以是因縁、我当修集慈悲之心、為欲利益諸衆生故、為得無量純善法故」というように、何故慈悲を修集すべきかを教えられています。

また、「一切善法，悲为根本」、「**若有说言：离于慈悲，得善法者，无有是处。」、「**若能修慈，当知是人，能破一切骄慢因，能行施、戒、忍辱、精进、禅定、智慧」**というように慈悲の大切さと慈悲は六度万行の基礎であることも、示されています。**

一方、『優婆塞戒経』では、禅定とは何かについて、現代人に稀に知られている定義もはっきり述べられいます。それは

戒、慈、悲、喜、舍

禅定即　 　远离诸结 　　　　　　　是名禅定

修集善法

（「禅定即戒、慈、悲、喜、舎。遠離諸結、修集善法、是名禅定」。『優婆塞戒経』禅波羅密品第二十七より）。

更に『大萨遮尼干子所说经』では、慈悲喜捨と四如意分及び禅定ないし神通との関係をより詳しく説かれています。「四如意分者：一者、欲如意；二 者、精进如意；三者、心如意；四者、思惟如意。如是四法，慈、悲、喜、舍而为根本。是四无量心常亲近，常亲近故，心得调柔。心调柔故，得入初禅、第二禅、第三禅、第四禅。入诸禅故，身得轻软。成就如是身轻心柔，入如意分。善入如意分已，即生神通。」（『大薩遮尼乾子所說經』卷第七，如來無過功德品第八之二より）

即ち、戒律を守り、慈悲喜捨を成すこと自体は禅定ないし神通の基礎であり、煩悩などの自身の結使を厭離し、善法を集って修得すること自体は禅定ないし神通の基礎であることを、仏陀は『優婆塞戒経』と『大薩遮尼干子所说经』を通じて明らかに説いたわけです。

以上の経文から、衆生に利益を与えるため、自分自身にいいことを集めるため、また六度と禅定ないし神通を修得するため、一人の仏教修行者は慈悲の理念を行動に移って実践しなければならないことが分かります。